

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中瑞穂区市丘町二丁目計画 新築工事	階数	地上8F
建設地	名古屋市中瑞穂区市丘町二丁目30番1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	330 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年4月1日
敷地面積	3,252 m ²	作成者	
建築面積	1,692 m ²	確認日	2024年4月4日
延床面積	7,213 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★ 環境品質 C 環境負荷 L	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 3.1		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.6		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 ZEH-Readyの取得を目指すため、外皮性能を高めるため断熱材の断熱性能を高めることや、アルミ樹脂複合サッシを採用。また家庭用燃料電池エネファームも全戸設置している。		
Q1 室内環境 開口部にはLow-E複層ガラス(アルゴンガス入り)を採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性の高いサッシとすることで快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。	Q2 サービス性能 建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。また、階高を2.9m以上確保することで広々とした天井高を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 中木、高木を植栽した。定期的に管理ができるよう、管理用通路を設置。自動灌水設備を設置する。生物多様性に配慮した外構計画を行っており、自生種の選定や巣箱、バードバス等を配置する計画としている。
LR1 エネルギー 建物外皮性能は日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級5を満たし、一次エネルギー消費性能についても等級6を満たしている。建物全体のBEE=0.50となっている。	LR2 資源・マテリアル 節水コマや節水型便器の採用により環境負荷低減に寄与する。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物(参照値)と同等以上。 ディスプレイを設置して生ごみの軽減を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市瑞穂区市丘町二丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。